

発生・発見日時		令和 7年 5月20日 9時 30分頃	
菊川水系 菊川		左岸 (14km～15km付近)	
菊川を観察するところどころに堰（せき）があります。今回は堰を調べたいと思いました。			
	堰の機能としては、・川の流れ、水量の調整		
	・農業用、生活用に利用する用水の確保、		
	・洪水等、災害時の対策 ・河口部の塩害		
	などがあるようです。		
	菊川14km付近（仲島）には200mほどの		
	間隔で、堰とブロックを並べてある場所が		
数か所続いています。川幅が広がっていて、水深も深くありません。			
	水鳥たちがたくさん集まっています。		
	今日はカワウが遊んでいました。		
			
堰は川から水を取水するための施設となります。水は私たちの生活に欠かせないものであり、大切にしていきたいですね。			
昔(50年前)は、この時期には腹を赤く染めたウグイの群れが堰をジャンプして遡上する姿が			
風物詩となっていました。多様な生き物がいる豊かな生態系が戻ることを願っています。			

発生・発見日時 令和 7年 5月20日 10時 30分頃	
菊川水系 菊川 右岸 (9km～9.5km付近)	
加茂、横地地区の広大な田んぼでは田植えが始まっています。	
	大井川の右岸地域では昔から水の便が悪く
	菊川にも各地にため池が存在しています。
	川の水も有用な資源だったのでしょうが、
	大井川用水が整備されて、現在は水の確保は
	問題なく農業活動ができています。
	9.5km付近に嶺田堰があり、嶺田用水
樋管があります。菊川の河川水も有効に使われているのですね。	
	
	高田橋から上流を望むと堰が見えます。
嶺田堰から上小笠川合流点の間は中洲があり、多くの生き物たちが休んでいます。	
高田橋の西側に菊川改修記念碑があります。治水の歴史に想いを馳せるのもいいですね。	

発生・発見日時 令和 7年 5月20日 11時 10分頃	
菊 川 水 系 菊 川 左岸 (5.5km付近)	
高田橋(9km付近)から下流部にかけては堰のような構造物は見られません。	
	護岸の整備され、菊川の流れが穏やかになっ
	ているせいなのかもしれません。
	大石地区七曲樋門付近は浅瀬となっていて
	多くの野鳥が遊んでいます。
	チュウサギは田植えが始まった田んぼに餌
を探しに出かけているようです。アオサギ	
カワウが休んでいます。冬鳥たちは北へ戻ったみたいです。	
	
春になって、土手の草も緑が茂るようになってきました。早々と除草作業が実施されていま	
す。これから、草が茂る季節が始まります。まだ、ゴミは少なくて良かったです。	

発生・発見日時 令和 7年 5月20日 13時 20分頃	
菊川水系牛湫川 左岸 (0.3km付近)	
牛湫川の菊川合流点付近に鹿島堰があるとのことで観察しました。	
	地図に記載されていた場所に行ってみると
	そこは廃墟になっていました。
	牛湫川の流れの中に堰のなごりのようなものが残っているようです。
	地上部は右岸の施設は撤去されていますが、
	右岸の橋梁は残っています。
	
鹿島堰は撤去工事を実施中です。	
立ち入り禁止の表示がありますが、撤去するのは難しいのでしょうか。	
人が来ることは少ないかもしれませんが、付近はカメ（ミシシippアカミガメ）の楽園になっています。	

発生・発見日時 令和 7年 5月20日 14時 20分頃 菊川水系牛湫川 右岸 (6.6km付近)	
牛湫川6.5km地点に下平川堰があります。この堰は住宅地の近くにあります。	
	上流部には両岸に用水樋管があります。
	現在も河川の水を有効に利用していると思われる。
	この堰を境に、上流部と下流部の環境は
	かなり変化しています。生き物たちもこの
	堰を境に分断されるのは気になります。
	
下平川堰から下流部は菊川合流地点まで繋がっていて、魚が遡上することができます。	
堰から上流部は、災害防止の観点から護岸が整備されているように見えます。10km付近の	
段向橋左岸には牛湫川改修記念碑があります。	

発生・発見日時 令和 7年 5月20日 15時 30分頃 菊川水系牛湫川 左岸 (11.9km付近)	
牛湫川の上流12.km付近に八幡井堰があります。	
この堰から200m先には神尾床止めがあり、そこから牛湫川の国の管理が始まります。	
	この辺りは豊かな自然環境が残っています。
	堰の上流部左岸には八幡用水樋管があり
	河川水が利用されています。
	堰から下流部はにも豊かな自然が続いて、
	魚や鳥を始め貴重な生き物を観察することができます。
堰から下流部の前川橋までの間、約2kmには	
昔と変わらない環境が残っていると考えられ、	
たくさんの貴重な生き物が観察されています。	
これから小魚が生まれると、それを目当てに	
鳥たちが集まり、ますます多様な生物群が	
観察できると考えられます。	
神尾地区で牛湫川と並行している道路の拡張工事が実施され環境が変わることが	
懸念されます。いつまでも、生き物たちが見れる環境であってほしいと思います。	